

Sumitomo Mitsui Banking Corporation Brazil DAILY MARKET REPORT



Treasury Department

マーケットサマリー

昨日のドルレアルスポット相場は、ドルが対レアルで買われ、一時2.61台後半までドル高となった。28日のFOMC声明文を前回の内容と比較すると、インフレ率について「短期的には一層の低下が見込まれる」との見通しが示された他、利上げ時期を決定する上で「国際情勢」が新たな要因として追加された点が気掛かりではあるものの、①景況判断が上方修正されたこと、②インフレ率の低下は一時的であり中長期的な見通しは安定していると判断していること、の2点を考慮すると、(原油価格を中心とした商品市況の悪化やギリシャ問題といった不透明な材料を受けてもなお)FRBは金融正常化への姿勢を維持していると見るのが妥当であろう。一方で、日欧を中心とした先進国の一員では、デフレ脱却を確実にするため量的緩和をさらに加速させると予想され(イスラエルやカナダ、デンマークなども緩和策を講じている)、金融政策を巡るスタンスに米国と明確な乖離が見られる。この点からも、マーケットではドル買いが誘発されやすい環境にあり、レアルを含む新興国通貨は目先ドル高に傾きやすいと推測される。ペトロプラス株は前日比3.1%安。政府介入や汚職捜査への懸念、不正確な第3四半期決算の内容を材料に、2014年9月以降の下落幅は62%に達する。

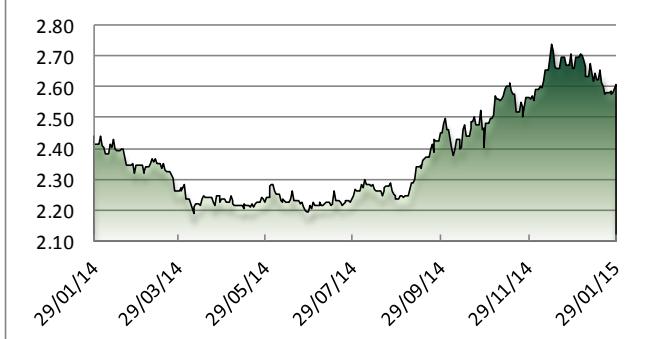
中銀は先週開催されたCOPOMの議事録を公表。短期的にインフレ率が上昇するリスクを指摘しているが、中長期的には鈍化する、すなわち、「2016年にかけて目標値である4.5%に収束する」との見通しは維持しており、3回連続の利上げを受けて「その可能性は高まっている」との見解を示した。12月声明文にあたった先行きの利上げ幅の縮小を示唆する文言が今回の声明文から削除されていることから、次回3月4日の会合においても50bpの利上げが行われるとの見方が市場の一部で強まっている。議事録において、「物価抑制はまだ十分に進んでいない」と示されていることからも、中銀は利上げスタンスを崩していないと見られる。

マーケットデータ

Indicator	Unit	1月28日	1月29日	前日比	12月29日	1ヶ月前比
BRL / JPY Spot	JPY	45.62	45.39	-0.23	44.62	+0.77
USD / BRL Spot	BRL	2.5766	2.6044	+0.0278	2.7052	-0.1008
USD / JPY Spot	JPY	117.54	118.29	+0.75	120.67	-2.38
Bovespa (ブラジル株価指数)	Index	47,695	47,762	+67	50,594	-2,832
CDS Brazil 5yrs (クレジットデフォルトスワップ)	bps	209.4	211.6	+2.2	187.9	+23.7
Brazil 10yrs Gov. Bond	%	11.80	11.84	+0.04	12.48	-0.64
DI Future Apr16 (金利先物)	%	12.65	12.65	+0.00	13.03	-0.38
3 Months US Dollar Libor	%	0.255	0.255	+0.000	0.255	+0.000
CRB Index (国際商品指数)	Index	215.0	212.6	-2.4	233.2	-20.6

これらのレートは各市場における終了時点の気配値です。実際のレート提示は弊行担当者までお問い合わせ下さい。

ドルレアルスポットチャート



レアル円スポットチャート

